

研

鑽

会

K E N S A N K A I

次代を担う
若者による
能舞台

2022.8.11 | 木・祝 | 14時開演(13時開場)

石川県立能楽堂 金沢市石引4丁目18-3
TEL.076-264-2598

|| 入 場 料 || 〈一般〉1,000円 〈若者割〉500円

※満席の場合、当日券がない場合があります。 ※若者割は30歳未満・当日のみ。受付にて年齢を確認できるものをご提示ください。

チケット取扱／石川県立能楽堂、石川県立音楽堂チケットボックス、金沢能楽会事務所

主催：公益社団法人 能楽協会 後援：北國新聞社

お問い合わせ》金沢能楽会 TEL.076-255-0075

*金沢能楽会のホームページより前売予約をすることが出来ます。
詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kanazawanohgakukai.jp>



〈仕舞〉

まきぎぬ
巻絹

高野 秀幸

キリ

うたうら
歌占

中村 清

キリ

【地謡】

高橋 右任

高橋 俊彦

渡邊 茂人

〈連吟〉

たむら
田村

水口 純治

笠間 啓

船本 嘉人

寺田 茂

ひやくまん
百万

米島 和秋

酒井 章

岩井 嘉樹

山本 貢伸

〈狂言〉

ふみやまだち
文山賊

【山賊】炭 光太郎

【山賊】中尾 史生

【後見】能村 晶人

〈能〉

はごろも
羽衣

【シテ】島村 明宏

【ワキ】渡貫 多聞

【ワキツレ】平木 豊男

【ワキツレ】北島 公之

【後見】

藪 俊彦

福岡 聡子

【地謡】

谷 清士
山崎 健
田屋 邦夫
松本 博

高橋 右任
佐野 由於
広島 克栄
渡邊 茂人

【大鼓】五十嵐浩之

【太鼓】麦谷 暁夫

【小鼓】住駒 俊介

【笛】後藤 尚志

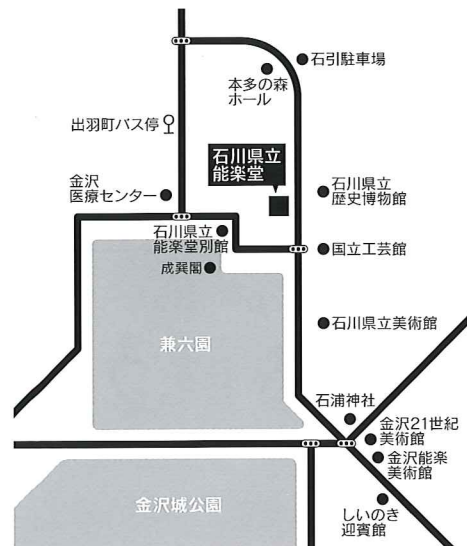
休憩(十五分)

*都合により、番組に変更のある場合がございます。

《終了午後四時半頃》

新型コロナウイルス感染拡大防止対策

- ・ご来場の皆さまにマスクの着用をお願いしています。
- ・入場口で検温をいたします。
- ・熱や風邪症状のある方のご入場をお断りします。
- ・入場口で消毒液による手指の消毒をお願いしています。
- ・会場での飲食販売をいたしません。
- ・そのほか、県のガイドラインに従い対応いたします。



●出羽町バス停より徒歩3分

解説 — 〈狂言〉 文山賊 ふみやまだち

今日も獲物を取り損なった山賊二人が、相手をなじり、組み合いますが、見物人のいない所では犬死になると、互いに手を放して書き置きをします。山賊をし損じ、口論の果てに刀に手を掛け、けなげに死んだと語り伝えておくれ。そう書くとき、妻子の嘆きが思いやられて、自分たちでも泣いてきます。一人は今月、伊勢講の当番でした。いま一人にも夜話に行く約束がありました。犬死にを避ける口実を見つけた二人は、仲直りして帰ります。

解説 — 〈能〉 羽衣 はごろも

のどかな春の朝、好風で鳴る駿河の国三保の松原に漁夫白竜とその連れ(ワキ・ワキツレ)が上がり浦の景色を眺めていると、虚空に花が降り音楽が聞こえ、靈香漂う不思議な気配を感じます。ふと見ると近くの松に美しい衣が掛けてあります。白竜が衣を手にしたところへ女(シテ)が現れて、それは天人の羽衣だからといって元に戻すよう懇願します。白竜は末世の奇特を喜び、容易に返そうとしません。しかし天上を慕う天女の深い悲しみを見かねては、白竜も国宝にしたいとの執着を捨て、天人の舞楽を奏することを条件に羽衣を返します。羽衣を着た天女は霓裳羽衣の曲を奏で舞います。この時を始めとして、地上では東遊の駿河舞が伝承されたということです。妙なる楽が上空に響き渡り、月宮殿の舞姫は散る花をかざし、霞に見まがう羽衣を翻して舞います。宝を降らし国土を祝福した天女は、十五夜の真如の月が照らすなか、富士の高嶺を経て昇天を果たします。